

桜児通信

2014 no.35

題字♡marina

聖心学園中等教育学校図書室

sakurako tsu-shinn

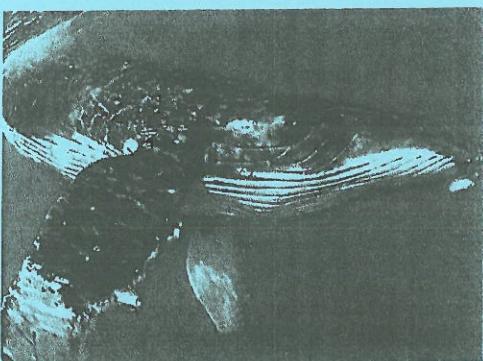
世界一孤独なクジラ、名前は「52」

「世界一孤独なクジラ」の発見を目指すプロジェクトの構想が持ち上がり、出資者を募っているという記事をCNNニュースで見かけました。鯨は仲間とのコミュニケーションを取っていると言われています。それが「クジラの歌」と言わているものです。しかしここに登場するクジラは仲間に理解されない歌を歌い続けているというのです。

「クジラの歌」と聞いて、思い出すことがあります。それは無人惑星探査機ボイジャーに積み込まれたというゴールデンレコードのことです。地球の生命や文化の存在を伝える音や画像が記録されているものです。地球外知的生命体や未来の人類が発見して解説してくれることを願つてのタイムカプセル的な意味も持っています。金色にコーティングされたそれには、惑星地球を代表する様々な音と共に、クジラの歌もまた収録されました。

このクジラの呼び名は「52」と言います。52ヘルツの周波数で歌っていることからつけられました。もう何年もの間この周波数で歌い続けていますが、仲間からの応答はありません。仲間のクジラは違う周波数を使っているため、たとえ「52」の歌が聞こえていたとしても、自分たちの歌とはあまりに違っているので理解できずに対応しないのではないかと言っています。それでも「52」は歌い続けています。そこから「世界一孤独なクジラ」のニックネームが付いたそうです。彼(彼女?)は何のために誰に向かって歌っているのでしょうか。(人間は、普通20ヘルツの低周波から約20キロヘルツの音まで聞くことができます)。

誰一人、このクジラの姿を見た人はいません。それでも存在することが分かっているのは歌が聞こえるからです。発見



樂からは尺八の楽曲)、55種類の言語による挨拶(日本語の「こんにちは。お元気ですか」など)や様々な科学情報などを紹介する写真、イラストやザトウクジラの歌も収録されています。これは、ボイジャーが太陽系を離れて他の恒星系へと向かうので、その恒星系の惑星に住むと思われている地球外知的生命体によって発見され、解説されることを期待して、彼らへのメッセージとして積み込まれたものです。

このメッセージには当時のアメリカ大統領ジミー・カーターの次のような一文も入っています。

『これは小さな、遠い世界からのプレゼントで、われわれの音・科学・画像・音楽・考え方・感じ方を表したもので。私たちの死後も、本記録だけは生き延び、皆さんの元に届くことで、皆さん想像の中に再び私たちがよみがえることがで

付けて、「52」の歌をすべて調査する計画だといいます。「52」の不思議な行動について、あまりに孤独だと思う人もいれば、一人でいることを楽しんでいると言う人もいます。まかつてないほどにつながるようになって、常にコミュニケーションし続けています。しかし実際に、誰の声にも耳を傾けず、どんなSOSも気にされ留めていないのではないか、と思えるような事件が起きています。「孤独は山の中にあります。」「孤独は山の中にある」などと、街の中にいる詩人もあります。「52」は見せかけだけのつながりは孤独でいるよりも怖いと言つてゐるかも知れません。

先にも述べたようにボイジャーには「地球の音」(The sounds of Earth)というタイトルの金メダルされた銅板製レコードが乗つていて、地球上の様々な音や音楽(日本の音楽からは尺八の楽曲)、55種類の言語による挨拶(日本語の「こんにちは。お元気ですか」など)や様々な科学情報などを紹介する写真、イラストやザトウクジラの歌も収録されています。これは、ボイジャーが太陽系を離れて他の恒星系へと向かうので、その恒星系の惑星に住むと思われている地球外知的生命体によって発見され、解説されることを期待して、彼らへのメッセージとして積み込まれたものです。

一九一七年の年末に、帝室博物館総長や図書頭(すしょのかみ)となり、一九二二年七月九日に在職のまま六歳で病没しますが、わずか四年間の勤めであつたとはい、これらの職に任官されたことが、鷗外をして正倉院へ出張せしめ、鷗外と奈良を結びつけることになりました。鷗外の奈良出張に関する詠草が著名な「奈良五十首」(全集十九所収)です。では、なぜ森鷗外は帝室博物館総長や図書頭に任命されたのか?数多くの鷗外研究で、この点を解明したものはあります。一説には、任官以前の三月一三日に新聞各紙が報道した、御物(天皇所有の文化財)売却事件が関係していたよう

です。この事件によつて、鷗外は文化財の在り方に小さいながらも後世に大きなうねりをもたらすようなメスを入れました。一九一八年十月、彼は宮内省と協議し、宝物を華族(か

きれば幸いです。』

本当に人間はいつも「誰か」とつながることばかりを考えているようです。「52」よりも孤独なのは人類の方かもしません。

現在も一号・二号ともに稼働しており、ボイジャー一号は二〇一三年九月現在で太陽から約187億キロ離れたところを太陽との相対速度・秒速約1、706キロで飛行中であります。地球から最も遠くにある人工物体となっています。

ぞく)や高級官僚ではない研究者や美術家など、本当に必要とする人々が観覧できるようにしました。そこに込めた鷗外の思いが並々ならぬものであったことは、たとえば、イギリス皇太子エドワードが正倉院を二十分で立ち去つたことへの感嘆を吐露していること(全集三十六の六二八頁)、国語学者山田孝雄に対し宝物の経巻の写真撮影に特別の便宜を図ろうとしたこと、東洋音楽史の泰斗田辺尚雄が宝物を調査するに際して、もし事故が起きたら持参した短刀で割腹して責任をとるから存分に研究せよ、と述べたことから容易に想像がつきます。

現在でも世間に流出している文化財は数多くあります。鷗外はそういった文化財の返還に寛容な姿勢をとりました。しかし、文化財が本来あるべきところに存在すべきであるという鷗外の姿勢は、後世に充分に受け継がれませんでした。だからこそ、外国に文化財が流出するのでしょうか。

鷗外が死去した翌年一九二三年九月一日、関東大震災が発生します。被災した博物館の復興、消失した文化財、そしてその後の正倉院宝物の保存と公開の行方を知らずに、この世を去らざるをえなかつた鷗外の気持ちを考えると、心中察するに余りあります。『万葉集』(卷二一四一)に収められた有間皇子の和歌に仮託して考えると、鷗外は「再びこの世に生を得るという幸運に恵まれたならば、また奈良へ帰り、文化財を見たいものだ」と思つてゐるのももしません。

岩代の浜松が枝を引き結び ま幸くあらばまたかへり見む
『万葉集』 有間皇子

うみなし 編集後記 霧舎寒九

論語の窓

子曰、君子不重則不威、学則不固、主忠信、無友不如己者、過則勿憚改。

子曰く、君子、重からざれば則ち威あらず、学べば則ち固ならず。

忠信を主とし、己に如かざる者を友とすることなけれ。

過てば則ち改むるに憚る(はばかる)こと勿かれ。

学而第一 第八

〔口譯訳〕

先生はおっしゃいました。

「君子は、重々しい雰囲気がなければ威厳がありません。学問をすれば頭が柔軟になります。
『忠』と『信』の心を大切にして、自分とレベルがあわない者を友としてはいけません。過ちがあつたのなら、それを改めるこつをためらつてはいけません。」

優れた人は、冷静沈着であることが必要です。

そして、独りよがりにならないように、常に学ぶ姿勢が必要です。そのためにも、自分にアドバイスで大きな影響の一つ「セント・オブ・ウーマン」のサントラだと思う。名優アルバチーノが年老いた全盲の軍人を演じ、若者との心の交流を描いた作品。映画の中で流れる曲、『美しい人よ』(原曲はスペインの『LA VIOLETERA』)だと。

確かにチヤップリンも映画の中で使つた美しい曲でした。朝からとてもいい時間が流れていったような気分でした。